

令和4年9月24日

令和4年9月 記者懇談会 冒頭挨拶

皆さんこんにちは。

記者の皆様におかれましては、ご多忙中にもかかわらず、お集まりいただき、誠にありがとうございます。

本日は、記者懇談会の後、灯台記念日に合わせ、部埼(へさき)灯台150周年記念行事としてタイムカプセルの開封式が行われますので、引き続き、ご参加頂ければ幸いです。

- さて、本日の本部からの発表事項は、お手元の資料にあるとおり、
- 最初が「遊泳中の事故が大幅減少」と称して、夏季における海難の発生状況について
  - 続いて、「ネコの目を借りてでも見張り徹底」と称して、秋季安全推進活動について
  - 最後に、「灯台記念日に合わせたイベント開催の紹介」
- の3点となっております。

1点目の、夏季における海難の発生状況についてです。

本年7月と8月の夏季における、第七管区海上保安本部管轄内における船舶海難は昨年同時期に比べ、4隻増加し59隻でした。また、人身事故は昨年同時期に比べ、40人減少し39人でした。

第七管区海上保安本部では、同時期に管内の部署や船艇が一丸となって「海の事故ゼロキャンペーン」や「夏季安全推進活動」を展開しました。

猛暑のなか、新型コロナウイルス感染防止を図り、多くの海上保安官が海水浴場をはじめ現場に赴き、遊泳者などに声掛けを行うなど、積極的な海難防止活動を行っていたことを、この場にて紹介させていただきます。また、本活動にあたり、警察、消防や自治体、民間団体やボ

ランティアなど多くの方のご理解とご協力を賜りましたことに、あわせて感謝申し上げます。

引き続き、海の事故がゼロとなるよう、今回実施した施策を振り返り、来夏に備えることとしております。

2点目の、秋季安全推進活動についてです。

夏季安全推進活動に続いて、10月の一か月間に、漁船海難の防止を目的とした「秋季安全推進活動」を展開します。

漁船による海難で一番多いのが衝突です。その原因は、見張りが不十分で衝突事故を起こしているものが最も多い状況にあります。

このため、常時適切な見張りの徹底を指導していきます。

また、気象や海象の情報を入手できず、あるいは入手せずに、沖合で漁を行い、天候の悪化による事故も発生しております。

漁船は貨物船などの他の船と違って、小さく気象や海象の影響を受けやすいです。

このため、気象や海象の情報の入手活用も指導します。

さらに、一人乗り漁船の場合、何らかの原因で海に落ちた場合、他に助ける人がいないことから、救命胴衣の着用、防水パックにいれた携帯電話の所持など自己救命策確保の推進も指導していきます。

昔に比べ事故は随分と減りましたが、ゼロではありません。引き続き、ゼロを目指して各種施策を展開することとしております。

3点目の、灯台記念日に合わせたイベントです。

ここ2、3年は新型コロナ禍でイベントの自粛が続いていました。本年は基本的な感染防止対策を徹底して、多くの方に灯台を身近に感じて頂ければと思います。

最後になりますが、これまで第七管区海上保安本部や管内の海上保安部署からの広報につき、報道いただき、この場を借りて感謝申し上げますとともに、引き続き、よろしくお願いいたします。